支障となる少しの凸凹や小石にも注意が払われていた。門叩きが行われた後もそこに凸凹があると何回も叩き[15]、また雨が降ったら必要以上に立入ることはなく、せいぜい猫車が入ることができたくらいだったといわれるほどに、だれもが厳重にしていた[13]。

しかし戦時中の昭和16年頃から、川泥を採取したり運搬する労働者が減少し、それ以降は泥土ではなく、邑久郡神崎あたりの山土（真砂土）を馬車で運び、カドに入れていた。それはやがてトラックによる運搬に代わり、昭和30年代以降、籾乾燥機や、近年のカントリー・エレベータなどの出現によって、カドでの筵干しも減少していった。現在多くの屋敷地のカドは植栽を中心とした庭へと変化しており、往時を偲ぶことがしだいに困難となりつつある。またドマは、旧来の建築が減少し、ドマじたいが消滅している一方で、旧家においてもコンクリートのドマへと変化し、門叩き・土間叩きともその使命を終えつつある。

注

（1）ごく普通にみられたものであったが、どの家にも持っているというものではなく、必要に応じて隣り近所で貸し借りしあっていた。岡山市君津在住・西﨑知義氏の教示。

（2）沖新田では集落単位で大人総出での共同作業であった。（政田民俗資料館蔵『記念写真帖』昭和16年、上道郡津田村、による）。第7図参照。

（3）政田民俗資料館見学者のうち、筆者が地元の方々へランダムに聞いたもの。

（4）ここで資料とする③№848-1と№848-2は、旧収蔵資料基本台帳によれば、資料1点員数2となっているが、実際には1組のものとして使用されるものではなく、個別の資料である。ここでは各々個別に示しておきたい。

（5）「家相はとくに備前で重視され、岡山市周辺では乾（いぬい）（戌亥）に倉、子（の）に釜屋、艮（うしとら）（丑寅）を空地とし、東側か西側に納屋を設けるというのが定型となっている」（土井卓治・佐藤米司『日本の民俗　岡山』第一法規出版、昭和47年、52頁）

（6）図は現当主の次田弘氏の父、次田匠氏が学生時代に描かれた1/100縮尺の「自宅平面図」である。なお、この屋敷の多くの建物は2003年春に取り壊されたため現存しない。

（7）先代当主・次田匠氏の弟である岩﨑俶堂氏の教示。

（8）岡山市上道北方地区では、秋の収穫前にカドを叩いていた。水を少し撒いたのち、土を入れて、約40㎝四方のタタキ面をもつ叩きでペッタンペッタンと叩いていた。叩く季節の異なるのは、北方地区では麦栽培はあまり行われていなかったことや、山裾に集落の位置する里山の農業地帯であるため、急激な地盤沈下もなく、毎年筵干しの際に支障のない程度の補修で間に合っていたためと考えられる。また、この叩きは、ため池の堤の補修や茅・藁葺屋根の補修にも用いられた。同所在住・安倉長幸氏の教示。

（9）干拓地のカドの沈下は、もと海底面であった部分に土を入れ、叩き締めてカドとしているため、歩いたり叩くことを繰り返すことによってその部分の地下水が逃げるため、沈下するものと考えられる。家屋などの建物については、後に述べるように基盤層の上に丸石を敷きつめたのち、微砂を2層に突き固めたところへ台石を置き、上屋を作るため、力学的に荷重が分散して、土地の上に浮いた状態で沈下が防げるとされる。一級建築士・高田康久氏の教示。

(10) 岡山市光津在住・岩﨑俶堂氏の教示。

(11) 元、桑野在住・小川政男氏の教示。

(12) 西﨑知義氏の教示。西﨑家では、この土を使用していたといわれる。

(13) 岩﨑知義氏の教示。

(14) 注（6）で示したように、この家は2003年春に取り壊されたが、その際に筆者が観察したものである。なお、家屋の取り壊しに際して重機が屋敷地で移動を繰り返した結果、2日目には屋敷地に水が湧き出し、豆腐状のフワフワした泥地へと変化した。

(15) 岡山市松新町在住・伍賀嘉一氏の教示。

岡山市埋蔵文化財センターご利用案内

所 在 地 〒703－8284　　岡山市網浜834－1
（TEL086－270－5066　　FAX086－270－5067）

公開時間 午前9時から午後4時30分まで

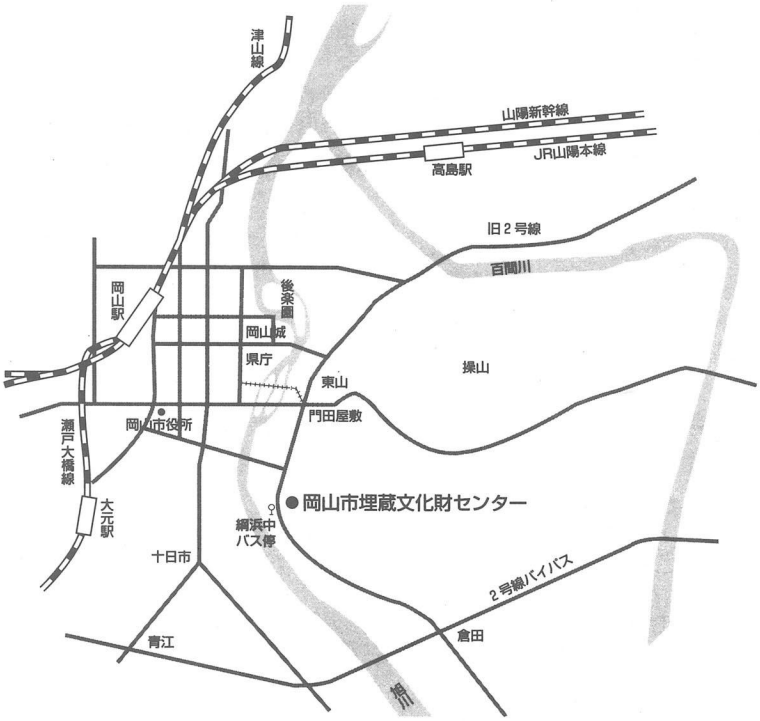
休 館 日 日曜日、国民の祝日に関する法律に規定する休日、年末年始（12月29日～1月3日）

入 場 料 無料

交通案内 両備バスまたは岡電バス　「網浜中」下車、徒歩5分
岡山駅・天満屋バスステーションから
・新岡山港行（四軒屋経由・新道経由）
・岡山ふれあいセンター行
・桑野営業所行（三蟠郵便局経由）
・湊倉益行

所要時間 岡山駅から約15分

URL　http://www.city.okayama.okayama.jp/kyouiku/maibun/



岡山市埋蔵文化財センター年報3
2002（平成14）年度

発行年　2004年3月31日
発　行　岡山市教育委員会
岡山市大供一丁目1番1号
編　集　岡山市埋蔵文化財センター
印　刷　片山印刷株式会社